

## 平成 29 年度 第 2 回 京都府立図書館協議会 議事要旨

### 1 開催日時

平成 29 年 11 月 16 日（木）午後 2 時から 4 時まで

### 2 場所

京都府立図書館（京都市左京区岡崎成勝寺町）

### 3 出席者

原田隆史会長、明致親吾委員、小川雅史委員、桂まに子委員、潮江宏三委員、内藤千鶴委員、永田 紅委員、松下亜樹子委員

※欠席者 村川広美委員、矢納佳実委員

### 4 会議の内容

- (1) 第 1 回協議会の議事録について
- (2) 平成 29 年度の当館活動の概要について
- (3) 平成 28 年度の評価及び平成 32 年度までの計画について
- (4) 新しい評価手法について
- (5) 今後のスケジュールについて
- (6) その他

### 5 協議事項（・：委員、→：事務局）

- (1) 第 1 回協議会の議事録について  
○事務局から第一回協議会の概要について説明。
- (2) 平成 29 年度の当館活動の概要について  
○事務局から概要を説明した。  
○委員意見  
・連続講座・活用講座の参加者の傾向・反応はどうか。  
→参加者の満足度は昨年度から高い。毎月テーマを変えるようにしているため、新しい方も参加されている。連続講座は新規の方が多いが、活用講座や見学会への初参加者は三分の一程度である。  
・参加者の年齢層や広報の方法は？  
→企画によってさまざまである。全体的に年齢層は高いが、武田五一に関する活用講座は府外など遠方からの方も含め、年齢層も多様であった。また、鉄道に関する企画では若い方にもたくさん参加いただいた。広報はホームページでの告知の他、地下鉄の駅でのポスター掲示や、通常は各 1 回の府教委の FM ラジオ広報番組を 3 回担当するなど、館外への展開を重点的に行った。  
・館外への広報展開は今後もしっかり行ってほしい。
- (3) 平成 28 年度の評価及び平成 32 年度までの計画について  
○事務局から概要を説明した。  
○委員意見

- ・ 数値については前年度の実績との比較の視点はあるか。また重点事項の決定に際し、5年間での力点のバランスはどうか。
- 平成28年度からのサービス計画ではあるが、これまでの実績を参考にしている。次年度以降の重点事項については、協議会にもお諮りして決定していきたい。
- ・ 実績評価で1となっているところは、現状では様々な要因で仕方のない部分が多い。1という評価をわざわざつけず、空欄でいいのではないか。
- ・ 今後の計画の凡例で、「－」の説明は、「未実施」ではなく、「未着手」ではないか。また、状況が整って、実際に取り組むまでは、空欄にしてはどうか。
- ・ 夜間のイベントを数度やられているが、わくわく感があってよい。また、オリジナルノートはすごく良かったが、奥付をつけるなど、さらなる工夫の余地はある。グッズはもっとあるとよい。連絡車にも愛称やマスコットキャラクターなどがあるとより親しみやすくなるのではないか。一般公募するのでもいいかもしれない。
- ・ 全般に、戦略的なテーマ設定を行い、若い層を引き込む方向で継続してほしい。例えば紙の歴史についての講座などはどうか。
- ・ 児童・生徒自身というよりも、保護者層やPTAにアピールするために、館長賞を授与するようなコンテストの実施があってもよい。
- 「まずは図書館を知ってもらい活用いただく」ということで様々な企画に取り組んだ。しおりコンテストは実施しているが「コンテスト」という形式以外での催しなども含め、戦略的に考えたい。
- ・ 平成28年度の評価について、項目40「カウンターサービスのより一層の向上」の評価は厳しすぎるのではないか。府立図書館の日々の取組はよく承知しているだけに、再検討を願いたい。
- 日常の対応としてはできているが、新しい取組があるかという観点で評価したもの。ご指摘をうけて再度検討したい。
- ・ 項目15「児童サービス等に関する情報の集積と発信」と項目32「電子書籍の動向を踏まえた導入」の状況部分に記載がないのはどうか。現在もそうだし、今後も具体的活動までに情報収集は行うことになるので、「何々についての情報収集」などと標記してはどうか。
- 項目15については、全国公共図書館協議会等の児童サービスなどの研修に意図的に参加させているので、再検討したい。また、項目32はシステム更新の時期や状況の変化、実証実験も踏まえ、このような表現になっている。
- ・ 先の報告とあわせ、「28・29年度は府立図書館がものすごく頑張ったのだな」ということは伝わった。ただ「5年後にどういう姿になるか」というイメージがない。大きな視点から個々の活動を位置づけ直すべき。例えば、どうしても今までの事業もこれからの計画も文系的要素が多いが、サイエンス・グローバル・環境・テクノロジーなどという理系的分野への視点が欠けている。「本を読ませる」の先を考えてほしい。また、新学習指導要領への対応についてもしっかりと検討願いたい。
- ・ 上記と連動して、職員育成という視点でも、従来型の司書にとどまらず、理系的知識を持った人物も含め、幅広い人材を育成するという観点がほしい。
- 会長意見
  - ・ 今までの議論をまとめさせていただく。平成28年度において、京都府立図書館は新しい事業にも多く取り組み、頑張っている。また、自己評価が甘いということはなさそうだということは確認された。なお、サービス計画策定時に想定されていなかった活動なども生じているともいえる。平成28年度・29年度については活動の項目自体

を書き換える必要はなさそうなので、この項目の枠組みのなかで、修正を行う方向としたい。今回いただいたご意見を尊重しながら、とりまとめは協議会会長へ一任願いたい。

(4) 新しい評価手法について

○事務局と会長から概要を説明した。

○委員意見

- ・作業グループの設置はよいことと思う。手法も含めてこのようなイメージで作っていくということによりと考える。
- ・本校では生徒の発表の評価をルーブリックで行っている。課題としては、評価者によって、項目ごとのずれが生じるのではないかとということ。標準化の試みを項目ごとに考えられるとよい。そうすれば全国に打ち出せる評価基準になるのではないか。
- ・「基準を作成する際に十分な検討を行う」「複数で評価する」など、評価のずれがなるべく生じないように考えたい。
- ・ルーブリックの場合「その場だけで評価する」ということでは良くない。「図書館がやってきたことを積み重ねていって、それを評価者が見る」という時系列で考えたい。
- ・状況の変化に対応するために、ローリングという作業を考えてほしい。評価システム自体が常に見直されなければならない。
- ・継続性については「協議会で議論いただく」という方向で担保したい。作業グループは時限のものなので、継続的にみているという主体が必要である。

○会長意見

- ・「作業グループの設置と評価基準の方向性は認めていただいた」ということで、具体的なことは事務局と協議させていただく。協議会のご意見をいただいて取り組みたい。

○補足意見

- ・平成 32 年度の到達の形を明示する方向で考えてほしい。

(5) 今後のスケジュールについて

○事務局から概要を説明した。

- ・次回は 2 月下旬の開催を予定。

(6) その他

○事務局から、図書館におけるマイナンバー利用の開始時期について報告した。